様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成２６年　６月　８日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2010～2013
課題番号：２２３２００４８
研究課題名（和文）近世上方文壇における人的交流の研究

研究課題名（英文）Interpersonal relations in the literary world of Kamigata in the Tokugawa period

研究代表者
飯倉　洋一（IIKURA, YOICHI）

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：４０１７６０３７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　8,000,000円、（間接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：第１に、近世上方文壇における人的交流について、従来の人物・文壇史研究を参照して、歌人・国学者に重点を置いた「近世上方文壇における人的交流年表」を作成した。データはエクセルファイルに入力し、3000以上の項目を収集した。これにより大まかではあるが、近世上方文壇の人的交流史が概観できるようになった。
第２に、小沢蘆庵の『六帖詠藻』（新日吉神宮蔵）をはじめて翻刻し、電子データ化した。その豊富な詞書における情報が、近世上方文壇における人的交流を解明する重要な資料として注目されていながら、従来翻刻がなかった。第３に、代表者・研究分担者がそれぞれの関心に従って、本研究課題に関わる論文・著書を刊行した。

研究成果の概要（英文）：1.Taking into account previous studies on historical figures and the history of the literary world (bundan), we created a "Chronology of the interpersonal relations in the literary world of Kamigata in the Tokugawa period" with a focus on poets and kokugaku scholars. This data was gathered in an Excel file with more than 3,000 items. It enables us to get a general survey of the history of interpersonal relations in the literary world of Kamigata in the Tokugawa period. 2.We transliterated and digitalized OZAWA Roan's "Rokujo eioso" (depository of the Imahira Imperial Shrine) for the first time. Even though this text is rich in information crucial for the clarification of the interpersonal relations in the literary world of Kamigata in the Tokugawa period, there was no transliteration of it until now. 3.Our group of researchers published articles and books on this research topic.

研究分野：文学

科研費の分科・細目：3101

キーワード：上方文壇　小沢蘆庵　六帖詠藻　上田秋成　堂上と地下

１．研究開始当初の背景

江戸時代の文芸は、所与の秩序に対する作者・読者の絶対的信頼、雅と俗という表現論的価値観の不変性、文芸の挨拶性や集団性など、近代的評価とは相いれない諸々の要素が前提とされた上で、作品が創造されてきた。しかし、そのような前提での研究は緒についたばかりであった。

とくに人間関係の良好な維持のために文芸的表現の果たす役割は大きかった。つまり、江戸時代の文芸の研究には、その前提としての人的交流のあり方の把握が必須となる。本研究は、その観点から、まずは近世中期以降の上方文壇における人的交流の実態を明らかにしようとするが、上方の場合、漢詩文壇・歌壇・俳壇・戯作壇は、棲み分けされているわけではなく、一人の人物が様々なジャンルに手を染めており、その境界は必ずしも明確ではない。文人意識が高く、中国趣味が流行した上方文壇では、書道・絵画・茶道等の交流活動も活発であった。江戸時代に即した文芸研究の試みとして、上方文壇における人的交流の研究を提案したのは以上のような背景があったからである。なお本研究の発想は、蘆庵文庫研究会編『蘆庵文庫目録と資料』（青裳堂書店、2009 年）の執筆メンバー（大谷俊太・飯倉洋一・山本和明・神作研一・盛田帝子・加藤弓枝）の、長年の共同調査・共同研究を通して生じたものである。

２．研究の目的

本研究は、近世上方（京都・大坂）文壇における様々な人的交流について、従来の個々の人物研究・文壇史研究を総合的に把握した上で、「近世上方文壇の人物相互交流データベース」「近世上方文壇における人的交流年表」の作成を基盤としながら、上方と地方、京都と大坂、堂上と地下、文学と書画、雅文壇と俗文壇などの越境的交流に特に注目し、多角的な視点からこれを分析・検討し、近世文学史・近世文化史へのあらたな視座を提示することを目的とする。なお時代的には、近世中期から後期にかけて重点を置くが、前期および明治初期までも射程に入れる。また対象とする人物は、歌人・国学者が中心となる。

本研究では、従来の近世上方文壇に関わる人名データベース、研究書・研究論文、作品の翻刻（とく書簡、日記、紀行文、随筆）、工具書の翻刻（地理書、人名録、随筆）を集成し、そのリストを作成する。次に未翻刻資料の翻刻・解題や、索引のない研究書の人名索引の作成なども基礎作業として行う。その上で、近世上方文壇における人的交流年表を随時データ更新させながら作成する。さらに、これらの資料を活用しながら、共同研究に従事する６名の専門性を相互に結びつけ、効果を挙げるために、近世中・後期上方文壇という枠組みは守りながらも、上方と江戸、上方と地方、京都と大坂、堂上と地下、文学と書画・雅文壇と俗文壇など、越境的な人的交流を具体的に明らかにする。とくに、人的交流情報の宝庫であるとされながら、これまで翻刻のなかった、小沢蘆庵の稿本六帖詠藻の翻刻を行う。本研究は、上方文壇研究史上、はじめての試みであり、人名データベースとして活用可能であり、美術史や思想史の分野の研究への貢献も予想される。

３．研究の方法

本研究の目的を達成するためには、本研究のテーマに関わる従来の研究文献の収集と、入力が必要であるが、この作業は特任研究員が中心となって行い、研究代表者・研究協力者らがデータをチェック・付加していくことを繰り返し行う。

これらのデータを基礎として、研究代表者と各研究分担者は、各自の問題意識に即した具体的事例について考察を深めてゆく。そのために研究代表者と各研究分担者は、各自の資料調査および共同の資料調査を行い、年１～２年の研究会・打ち合わせの場を設ける。研究会ではゲストスピーカーを招いて、当該テーマに関する多角的視点を養う。

具体的な方法について以下述べる。

近世上方文壇の人的交流に関する従来の研究文献（研究書および論文）を可能な限り網羅的に収集し、そのリストをデータベースとして構築する一方、その中に示される人物の基本データと人的交流についてピックアップし、年表データとして構築する。同時に、人物情報の記されている文献についてもリストを作成し、主要なものについてはテキストファイルを作成する。それらを電子データとして共有することで研究の効率を飛躍的に高める。

とはいえ網羅的に収集するのは不可能に近いので、分野については和歌・和文・国学を中心に、地域的には京都を中心に、時代的には天明から文化を中心にデータを収集する。これは本研究グループの母体が、蘆庵文庫研究会であることから必然的な選択である。また研究構成員が、それぞれの感心に従って本研究の中心となる人物を選び（単数とは限らない）、その人物の人的交流を網羅的に調査し、それらを突き合わせていくことで、近世上方文壇の実態に迫る。

まず、森銑三、中村幸彦、丸山季夫、中野三敏、大谷篤蔵、宗政五十緒、高田衛、中野稽雪、水田紀久などの個人伝記研究書の人的交流情報を拾い、人名で見出しをたて、交流人物、年月日、場所（会）、原典拠の項目で採取し、それを総合化する。次に本研究に参加する個々の研究者が持つ人的交流データを持ち寄り、これを総合化する。本研究の主要メンバーが蘆庵文庫研究会メンバーと重なることから、小沢蘆庵の自筆本『六帖詠藻』を柱として、『上田秋成全集』、『蕪村全集』らの個人全集類、近世上方文人の家集（詩集）、『兼葭堂日記』をはじめとする日記・書簡・随筆などから、データの補遺を行う。

　また、当代未翻刻資料の翻刻作業を行い、新たな資料の発掘にも注意を払う。特に、新日吉神宮蘆庵文庫所蔵『六帖詠藻』の翻刻と人名一覧の作成は、ぜひ実現したい。
　人的交流年表の作成と、『六帖詠藻』の翻刻を進めつつ、年１、２回行う研究会で、全員が発表し、かつゲストスピーカーを招集し、知見を広げる。

４研究成果

(1)近世上方文壇人的交流年表稿の作成

　近世中期から後期にかけての上方文壇における人的交流年表をエクセルファイルで作成した。この年表は、近世上方文壇における人的交流に関する事象を既存の研究書や論文から摘記し、年代順に配列したもので、採録の対象は享保期（1716～36）以後、特に小沢蘆庵（1723～1801）とその周辺を中心にした。項目数は3292。年表の記載情報は、左から（A）西暦、（B）和暦、（C）閏、（D）事項、（E）交流人物、（F）典拠、（G）参考文献の順で提示した。本年表の作成には主に浜田泰彦（2010～2012 年度）と箕田将樹（2013 年度）とがあたり、研究代表者と分担者が校閲した。本年表は、従来の個別の伝記研究を総合したところに大きな意義があり、近世中期から後期にかけての文学に関わる研究を行っている者には、非常に便利なツールになると思われる。事実、すでに多くの高い評価をいただいている。

(2)新日吉神宮蘆庵文庫所蔵『六帖詠藻』の翻字と人名一覧の作成

　小沢蘆庵の家集『六帖詠草』（刊本）には、自筆草稿本があり、静嘉堂文庫が所蔵する。この自筆草稿本は、約15000首を収め、刊本の数倍の情報量を持っており、その詞書に登場する人名は300名を超え、人的情報の宝庫である。しかし、判読しがたい原本またはマイクロフィルムでしか読むことができず、その翻字が待望されていた。今回の翻字は自筆本を蘆庵の門人たちが分担して筆写したと考えられる新日吉神宮蘆庵文庫所蔵本を底本にしたものであり、静嘉堂文庫本との校合作業を残しているとはいえ、画期的な成果であると考えられる。人名索引は一応作成したが、完璧を期するため、また将来の静嘉堂文庫を底本とした『六帖詠藻』出版を見定めて、今回は見送り、人名一覧を付すことにした。ただし、ＰＤＦで翻字ファイルを提供しているので、検索は可能であり、その利用価値は極めて高い。
　今回、翻字および翻字点検を担当したのは、飯倉洋一・大谷俊太・加藤弓枝・神作研一・浜田泰彦・盛田帝子・山本和明・箕田将樹である。翻字に際し、大阪大学大学院生（修了生を含む）の有澤知世・康盛国・仲沙織・藤崎裕子・籔根知美各氏の協力を得た。なお、藤田真一氏・鈴木淳氏・久保田啓一氏・岡本聡氏の翻字原稿が、今回の翻字作業にきわめて役に立った。

(3)文献調査の実施

　台湾大学図書館に蔵される上方文壇資料を調査した。2010 年度は飯倉洋一・加藤弓枝・盛田帝子が、2011 年、2012 年には盛田帝子が調査を行った。加藤は同図書館所蔵の稿本六帖詠藻の異本としての『蘆庵集』の書誌および内容の検討を行った。盛田は『雲錦翁歌集』の初版初刷（初刷時の帙付）を発見、同書を台湾大学図書館から出版する運びとなった。
　2010年と2011年には住吉大社、2011年には大阪市立大学森文庫、2010 年・2012 年には新日吉神宮蘆庵文庫、2012年には西尾市岩瀬文庫の調査を行った。
　また個別研究として、飯倉が 2011 年に、フランスニースのシェレ美術館・パリのギメ博物館の資料調査を行うとともに、ヨーロッパの日本近世文学研究についての情報収集を行った。その他、宮内庁書陵部・国文学研究資料館・国立国会図書館・九州大学等で各分担者が調査を行った。

(4)研究会の開催

　本プロジェクトでは、2010年から2012年の3年間、毎年研究会を開催した。
2010年3月には共同研究者各自が課題に関わる調査に基づく研究発表を行った。神作研一の「上方地下の系譜―栂井一室について―」は、これまで、革新的な国語学者として専ら注目されてきた栂井一室の和歌に着目し、その歌風が上方地下の典型である二条派流に倣ったものであること等を明らかにした。加藤弓枝「書簡からみる小沢蘆庵の門人指導」は、新出資料である「蘆庵書簡集」（青裳堂書店蔵）の内、特に蘆庵の門人で三井家の寿問・寿詮・寿欽・およを宛書簡より、時に厳格な蘆庵の門人指導のあり方を明らかにした。大谷俊太「『倚春庵当座和歌集』について」は未紹介資料である『倚春庵当座和歌集』（大阪市立大学森文庫蔵）には蘆庵の和歌が多数入集している。「倚春庵」とは三神元迪であることを明らかにし、その和歌をめぐる人的交流の様相を示した。当該資料により、蘆庵が「玄沖」の署名を用い始めたのが明和九年四月二十七日以降、九月二日以前あったことや、元迪と親しい交流があったこと等が判明した。盛田帝子「賀茂李鷹と堂上歌壇」は有栖川宮に御所伝授を相伝された賀茂李鷹が、表向き伝統的堂上派歌人の顔を持ちながら、一方で蘆庵・秋成・蒿蹊等と共に妙法院真仁法親王が主導した古学推進のグループに属し、幕末にむかうにつれて堂上歌壇と地下歌壇のエネルギーが反転してゆく契機を作った一人でもあったことを明らかにした。飯倉洋一「蕉雨園集に見る人的交流」は、蘆庵門人であった前波黙軒歌集『蕉雨園集』（文政元年五月刊）より、黙軒門人や妙法院真仁法親王、蘆庵門人等との人的交流がうか

がえる作品に着目し、報告した。

2011 年 3 月には、公開研究会を開催、お茶の水女子大学の浅田徹氏を招き「近世歌壇史のための覚書」と題する基調報告をしていただいた。また課題に関わる研究発表として、大谷俊太「小川萍流家集『麓塵集』について」、加藤弓枝「妙法院宮の嵯峨野遊覧」、神作研一「香川家の血脈」、浜田泰彦「『俳諧句双紙』に見る人的交流について」、盛田帝子「光格天皇歌壇における近衛経熙と円台院宮ー転換期京都歌壇史のために」、山本和明「天明大火一件点描」があった。浅田氏の基調報告をめぐる質疑では多くの収穫があり、浅田氏は、同報告の内容を『上方文藝研究』9（2012 年 6 月）に発表した。

2012 年 3 月には、西尾市岩瀬文庫で研究会を開催した。国文学研究資料館の鈴木淳氏を招き「小沢蘆庵についての二題」というご講演をしていただいたほか、青山英正氏が「城戸千楯の交友と出版」、一戸渉氏が「出府と蟄居－非蔵人橋本経亮の誤算－」、高松亮太氏「上田秋成と蘆庵社中－雅交を論じて『金砂』に及ぶ」と題した研究発表を行った。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 16 件）

①飯倉洋一「交誼と報謝－秋成晩年の歌文」（『語文』第 95 輯、12～22 頁、大阪大学国語国文学会、2010 年 12 月）

②飯倉洋一・濱住真有「中井履軒・上田秋成合賛鶉図について」（『懐徳堂研究』第 3 号、3 頁～15 頁、懐徳堂研究センター、2012 年 2 月）

③飯倉洋一「秋成と「神医」谷川兄弟」（『柿衞文庫企画展　神医と秋成谷川家資料にみる』、43～46 頁、柿衞文庫、2012 年 3 月）

④大谷俊太「後水尾院・後西院述、近衛基熙記、諸道聞書『御手扣』解題と翻刻」（『女子大国文』150 号、89 頁～130 頁、2012 年 1 月）

⑤大谷俊太「翻刻 近衛信尋自筆『新一人三 ①
臣和歌』」（京都女子大学大学院文学研究科研究紀要『国文論藻』12 号、57 頁～117 頁、2013 年 3 月）

⑥加藤弓枝「久世家と古今伝受資料」（『研究成果報告 久世家文書の総
合的研究』、43 頁～51 頁、国文学研究資料館、2012 年 3 月）

⑦加藤弓枝「非蔵人の文学的営為　－蘆庵文庫蔵書を通して－」（『調査研究報告』33 号、3 頁～13 頁、国文学研究資料館、2012 年 5 月）

⑧神作研一「『聞書』－栂井一室述・記者未詳－」（『金城日本語日本文化』87 号、7 頁～34 頁、金城学院大学日本語日本文化学会、2011 年 3 月）

⑨神作研一「上方地下の系譜－栂井一室について－」（『国語と国文学』88 巻 5 号、24 頁～34 頁、東京大学国語国文学会、2011 年 5 月）

⑩ KANSAKU Ken-ichi「An Outline of the History of Waka in the Edo Period」（『国文学研究資料館紀要（文学研究篇）』40 号、左 5 頁～27 頁、国文学研究資料館、2014 年 3 月）

⑪盛田帝子「歌道宗匠家と富小路貞直・千種有功－近世中後期堂上歌壇の形勢」（『国語と国文学』第 68 巻第 5 号、35 頁～48 頁、東京大学国語国文学会、2011 年 5 月）

⑫盛田帝子「歌に詠まれた神医谷川家」（『柿衞文庫企画展　神医と秋成谷川家資料にみる』43 頁、柿衞文庫、2012 年 3 月）

⑬山本和明・青木稔弥・青田寿美「酒田『書籍購読会一途』瞥見」（国文学研究資料館「調査研究報告」31 号、国文学研究資料館、53 頁～84 頁、2011 年 3 月）

⑭山本和明「稀書翫味の交遊圏（一）」（『相愛大学研究論集』28 巻、324 頁～344 頁、相愛大学研究論集編集委員会、2012 年 3 月）

⑮山本和明「鹿田松雲堂というサロン(稿稀書翫味の交遊圏(二)」（『相愛大学研究論集』9 巻、109 頁～122 頁、相愛大学総合研究センター、2013 年 3 月）

⑯山本和明「近世的表現としての「序」・覚書」（『図説「江戸の表現」』、258 頁～270 頁、八木書店、2014 年 3 月）

〔学会発表〕（計 4 件）

①盛田帝子「近世中後期堂上歌人における本居宣長『伊勢物語』評の位置」、鈴屋学会、2011

②盛田帝子「雲錦亭の蔵書形成－賀茂季鷹の知源－」、日本近世文学会、2011 年、高麗大学校

③盛田帝子「賀茂季鷹と転換期京都歌壇－雲錦亭蔵書から見えてくるもの」、2012 年、和歌文学会東京例会

④盛田帝子、「光格天皇と和歌添削」、2012 年、和歌文学会関西例会

〔図書〕（計７件）

①四元弥寿著、飯倉洋一・柏木隆雄・山本和明・山本はるみ・四元大計視編『なにわ古書肆鹿田松雲堂五代のあゆみ』（250 頁、和泉書院、2012 年 11 月）

②飯倉洋一『上田秋成－絆としての文芸』（258 頁、大阪大学出版会、2012 年 12 月）

③大谷俊太（研究代表者）『奈良古梅園所蔵資料の目録化と造墨事業をめぐる東アジア文化交流の研究』目録編 329 頁、資料・解題編 452 頁（科学研究費補助金基盤研究（B）成果報告書、2012 年 3 月）

④鈴木淳・加藤弓枝著、久保田淳監修『和歌文学大系　六帖詠草・六帖詠草拾遺』（531 頁、明治書院、2013 年 8 月）

⑤加藤弓枝　『細川幽斎（コレクション日本歌人選）』（119 頁、笠間書院、2012 年 3 月）

⑥神作研一『近世和歌史の研究』（角川学芸出版、521 頁、2013 年 1 月）

⑦盛田帝子『近世雅文壇の研究－光格天皇と

賀茂季鷹を中心に一』(418 頁、2013 年 10 月、汲古書院)

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者
飯倉　洋一（IIKURA,Yoichi）
大阪大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：40176037

(2)研究分担者
加藤　弓枝（KATO Yumie）
豊田工業高等専門学校・一般学科・准教授
研究者番号：10413783

(3)研究分担者
神作　研一（KANSAKU Kenichi）
国文学研究資料館・研究部・教授
研究者番号：30267893

(4)研究分担者
大谷　俊太（OHTANI Shunta）
京都女子大学・文学部・教授
研究者番号: 60185296

(5)研究分担者
山本　和明(YAMAMOTO Kazuaki)
国文学研究資料館・古典籍共同研究事業センター・特任教授
研究者番号: 90249433

(6)研究分担者
盛田　帝子（MORITA Teiko）
大手前大学・総合文化学部・准教授
研究者番号:40531702